

プロトコール名		1クールの日数	放射線治療
胃癌 Nivolumab + CapeOX療法		21日	■なし □あり
投与日	薬品名(※赤字は抗がん薬)		
d1	① 生理食塩液50mL(プライミング用) ② 生理食塩液100mL + オプジーボ360mg 投与時は0.2又は0.22µmのインラインフィルターを使用。 体重30kg未満の場合、総液量100mL以下とする。 ③ 生理食塩液50mL(フラッシュ用) ④ アロキシ静注0.75mg + デキサート注射液6.6mg + 大塚糖液5%50mL ⑤ エルプラット130mg/m <sup>2</sup> + 大塚糖液5%500mL ⑥ 大塚糖液5%50mL(フラッシュ用)		
d1-14	<b>カペシタビン</b> 2000mg/m <sup>2</sup> /日 (1日2回朝夕食後) 体表面積に応じて以下の用量を投与する。 1.36m <sup>2</sup> 未満:2400mg/日 1.36m <sup>2</sup> 以上1.66m <sup>2</sup> 未満:3000mg/日 1.66m <sup>2</sup> 以上1.96m <sup>2</sup> 未満:3600mg/日 1.96m <sup>2</sup> 以上:4200mg/日		
コメント	d1-14 カペシタビン1日2回内服(体表面積1.36m <sup>2</sup> 未満:2400mg/日、1.36m <sup>2</sup> 以上1.66m <sup>2</sup> 未満:3000mg/日、1.66m <sup>2</sup> 以上1.96m <sup>2</sup> 未満:3600mg/日、1.96m <sup>2</sup> 以上:4200mg/日)		

プロトコールに関する解説
<p>本療法は、胃癌で有効性が示された治療法です。臨床試験により、PD-L1 CPS 5以上の未治療切除不能・再発胃癌患者の1次治療としての、ニボルマブ+化学療法の有効性が示されました。グレード3-4の副作用はニボルマブ+化学療法群の59%でみられています。</p>